

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵税共五十錢)



和清山香 會所 印刷所  
市田上縣野長  
校學門曲上縣野長  
町原市田上縣野長

### 颱風並に會員の被害状況

此の頃日本を荒し捲つた風神の暴虐非道振りは各種の情報に依つて既に御承知の通りである。吾が同窓會員各位並に母校の直接間接に受けた被害も亦決して尠くはない。今手許にある材料を一括して御報告して見たいと思ふ。

先づ最初此の颱風の歩いた間どりや其の威力の跡等に就いて原田先生に教を請ふた。所が丁度中央氣象臺から『颱風概報』と題する小冊子が頒布された際であつたから夫れを骨子として詳細の御説明と懇切なる御教示を得たので以下其の要約を載せることにした。尤も此の概報にも『拙述』として断つてあるから多少變更されるかも知れない。其の徑路等異つた報告を出した所もあると云ふ。其の邊境御諒承を乞ふ次第である。

抑も此の香ばしからぬ颱風の生誕は九月十三日南洋パラオ島南東海上であると云ふ。十八日頃迄は時速二軒の緩歩で進行し二十一日の夜半には宮崎南東約百軒の海上に達し此の頃から時速六、七十軒に速度を加へ進路を北東に取り足摺岬の海上、室戸岬、徳島、淡路洲本等を經午

れから岐阜愛知の北端を掠め信濃路へ還入つたが地圖で見ると南信諏訪附近から北アルプスの連峯を一掃し越後に出たのが正しいやうに見える。長野縣としては南信特に諏訪地方の損害が如何に劇甚であつたかは之に據つて想像が出来る。然し颱風の中心が中部日本にかゝる頃定石

的な間低氣壓が裏日本又は其の近海に三現はれて本流の勢力は餘程減殺されて居たことは事實である。之が諏訪が阪神の被害に比して少い所以であつて不幸中の幸と云ふべきである。裏日本に出た颱風は正午には新潟に達し午後三時山形の北方を、午後六時陸中富山の北海を通過し翌朝六時には其の東北東七百軒の太平洋上に姿を消さしその悪魔も漸くして跡を断つことが出来たのである。東北に出た時も秋田方面に間低氣壓が現はれたので其の勢力は一層減殺された。

次に此の颱風の強度に就いて記さう。最低氣壓を示したのは高知縣室戸岬で二十一日午前五時十分六八四軒を示して居る。世界最低の記録は明治十八年九月二十二日午前六時三十分印度のフォル、ポイントで觀測したもので六八九軒であると云ふ。それより低きこと實に五、二軒で一躍日本が最低のレコードホルダーとなつて了つた。今此氣壓を常壓七六〇軒に比べると七六軒不足する。之を毎平方

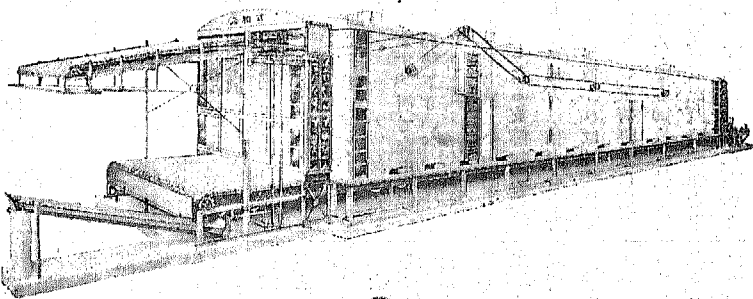
山本三六郎著  
化學純絹の工業的完成  
伊太利製絲業の現況  
伊太利製絲業の衰退原因と其の改正  
菅原勇治著  
蠶絲業法規要論  
市田上縣野長  
會究研學科絲蠶 所行發  
〔振替長野6413番〕

方米の受くる壓力に換算すると二百七十六貫の不足となる。此の程度の氣壓が襲來して來た際風が更に無い場合は洋風建築の窓硝子は總てが外に向つて破壊するを常例とする云ふ。海水も此の爲に一米は上昇するを原則とする。

風速の一番強かつたのは矢張り室戸岬で毎秒四十五米である。明治三十二年鹿兒島で四十九米六六三三年九月石垣島で四十八米六は何れも世界的記録であるが之等に次ぐべき世界的記録たることを失はない。以上の風速は二十分平均の速力であるが風は息をついて吹くを原則とするから強い瞬間は一倍半乃至二倍量に見て差支ないと云ふ。其れから割り出すと四十五米と云へば七十乃至九十米はあり得る譯である。四十五米の風速を直角に受くる雨戸は七十二貫の重壓となる。大阪附近の三十米でさへ四十八貫の荷重であると云ふから假りに瞬間速力六十米を想像すれば其の被害の程度も思ひなかに過ぐるものがあらう。

かゝる暴風に從つて海岸は海嘯を伴ふものであるが大正六年東京の大津波に比べては小さかつた。蓋し颱風の通過速度が餘りに速かつたため、海水がそれに伴ひきれなかつた結果だらうとのことである。大阪の最大波高は平時に比して計算上は一、六四米であるが實際は之よりかなり大きく神戸では二米位と推定されて居る。

### 現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



一九三四年代表型

【型録贈呈】

製作發賣元

株式會社

大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地  
電話京橋(56)五三二〇番

營業課目  
特許大和式自動輸送乾燥機  
特許帶川三光式乾燥裝置  
特許やまやホイロー機  
特許大和式熱湯自動還元機  
特許水野式改良ロストル  
特許アイエム・コールセnder  
特許アイエム・ストーカー

尙此の颱風に就いて、特異的な點がある。一般の通則としては颱風が上陸した場合陸地の摩擦によつて運動が阻害されて弱るものである。然るに今回は土佐沖から陸に上つて反つて發達した形跡のあること即ち之である。之は畢竟陸地に何等かの颱風を養ふ可き素因があつたものであるらしいが尙研究は他日に俟つことである。

母校に於ては昨日の豫報に基づいて先づ二十一日の夕方來襲を受けるものと思つて居たが意外に早く午前十時半に氣壓七百三十五と云ふ最低深度を示し、其の前後各四十分ばかりの間に通過して了つた。十一時の温度は割に高く二十八度を示し湿度は八十三%を示して居る。風は南で最高風速二十米であるが前掲の理由により四十米位のあつたことは否なまれない事實である。此の間僅かに一時間半足らずであるが未知の經驗であるが故に如何にも物凄く感じた。颱風一過後の静寂を味つてホッと息をした。

次に本會の取つた所置を御報告する。二十一日夜のニュースから被害の程度が續々報告されたが二十二日の新聞が其の慘狀をマザ／＼と吾等の眼に展開してくれた。夫等のニュースに基いて最も甚しいと想定される場所即ち、東海、三重、

愛知、京都、大阪、兵庫、神戸等の支會又は地方の事情の判かりそうな先輩に見舞電報を發した。其の日の午後名古屋の芝氏の返電を先頭に二十四日迄全部御返電を戴いたが各地共みな無事の報知を得て、漸く安堵の胸を撫で降ろした。更に被害地と目する、愛知、三重、岐阜、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、徳島等の一部へ見舞電報を百二十二通發送した。此の發送先も其の附近會員の動靜が判かりそうだと思ふ人に代表して差上げたが、實際とそぐはない所もあつたかも知れないが御諒承願ひ度い。然るに被害の範圍は段々廣くなつて來たので各支會長宛に安否を伺ふと同時に母校の現況を報告した。又母校からは京阪地方並に猛烈な被害地の關係官衙會社、個人等會員に關係を持つ二百餘箇所に見舞電報を發送した。然し後になつて段々判つて來たことであるが、もと劇甚な被害地が其の他各方面に澤山あつた。四國山陰等の二三縣は其の最たるものである。然し新聞のニュースが最初の報告をネグレクトした爲め遂に御見舞の機會を失して遺憾に堪えない。此の場合に釋明して御詫びを乞ふ次第である。

被害状況は各會員の報告によつて見るに個人的に甚しいと云ふものは一人もなかつた事は御同慶に堪えない。末尾に二三を摘録して置いたから御覽を乞ふ。母校ではあの寄宿舎前の眼通り五六尺大のボプラが四本寄宿舎側に倒れて庇から屋根に二尺ばかり喰ひ込んだ。倒れたボプラを見ると根廻りはまことに小さいものである。運動場の柳も吹倒され、たが別に他には何等の被害がないから御安心願ひたい。茲に取り急ぎ概況を御報告した次第である。(九、一〇、四、倉澤)

諏訪地方 啓、御見舞に預り恐縮仕候。幸ひ當地會員には被害無之候間御放心願上候。然し會員諸君の勤務致され居る工場は夫々相當の被害有之二、三日乃至一週間位休業の止むなき工場有之候。最も其の中被害の多かりしは下諏訪町の昭榮製絲會社(村田信宣氏勤務)かと云へられ候。工場の屋根は殆んど吹飛ばされ大煙突は總て打倒され、實に慘たるものに御座候。其の外丸九渡邊(御子榮義之氏勤務)煙突倒壊、龍上社(石塚辰之助君重役)煙突倒壊、工女一名死亡、山水製絲所(鹽原克巳君)等被害相當有之候。諏訪地方煙突の倒壊せるもの七十五本、繰業不能の工場數七十一この運轉釜數九千四百五十四損害約四十二万円に有之候。概略御報告申上候。御禮迄、草々。

神戸地方 早々暴風雨の御見舞被下誠に有難く奉謝候。當地は御座にて大した事なく海濱部が被害を受けたるのみに有之損宅は山手の爲其難をのがれ申候。又小生關係の諸會社はいづれも大した被害は無之、只新興毛織會社本社工場が倒壊一棟死者八名傷者四十名を出し申候。之れは明治二十年來の古き建物を使用せし爲に有之補修十分ならざりし責は吾等にもある事と存候。新規建設中の工場は各注文材料及機械等の製作供給者が今回の大害を受けし大阪市海濱部にあり此等の工場は復舊は一寸豫測致し兼ね候爲事業の完成期に相當の遅延はまねがれ得ざる所と存候。又硫酸工場の多くは運搬關係より海濱部に位置せると建物の構造上より今回大被害を受け當分の間は硫酸の供給困難ならざる人網業者は一大頭痛に有之候。右大略を申上げ不取致御厚情御禮申上候。順首。(九月廿七日附、加美好男氏)

和歌山地方 謹啓、早速御見舞狀を辱ふし難有奉謝候。今度の近畿地方を中心に本州全土を襲へる颱風は未曾有の強烈なるものにして當和歌山市に於ても廿一日午前六時頃より約二時間に亘り猛烈なる襲來を受け、家屋は倒壊し屋根は吹飛ばされ、煙突、樹木の倒臥挫折數無く、人畜の死傷亦相當に有之候。殊に和歌山

市及海草、有田兩郡の海岸地方一帶は高波の襲來を伴ひ其の慘狀目を掩ふべきもの之候。一時通信機關は勿論、交通機關杜絶の爲め、地方の状況も判明せず何れも變り果てたる我家を眺め然る自失の態に有之候。全縣下の被害状況概略申述れば死者二四、傷者二四、行方不明六、家屋全壊一七〇八、半壊一四七九、流失一七、船舶沈没流失一五〇五、其の他農作物の被害莫大にして特に本縣名産の柑

少し損害額幾何二万七千圓十一万二千圓合計十三万九千圓にして翌年に及ぼすものを加ふれば實に三十七万九千圓に達すべく候。製絲工場の倒壊家屋十數棟煙突の倒臥も多かり回復見込困難の向も有之候。其大部分は直ちに復舊に着手し被害少きものは既に操業を開始致居り被害額は十萬圓程度かと推定仕り候。目下晩秋蠶は既に上簇終了致し繭出廻期を控へ乾燥不能の向も尠からざれど互に便宜

陸上運動會御案内

拜啓時下秋涼の候益々御清祥の段奉賀候。陳者本月二十一日(雨天順延)午前八時より當校運動場に於て第十九回運動會開催可仕候間御來臨被下度此段御案内申上候。敬具

昭和九年十月十五日 上田蠶絲專門學校校友會 會長 針塚長太郎

特別會員各位 追而本廣告を以て招待狀に代へ候間御來臨の節は特別會員たる旨掛員へ御申出被下度候

蠶絲學雜誌七卷二號原稿募集

一、發行豫定 十一月二十日  
一、原稿締切 十月二十日  
一、報文、調査、資料の何れを問はず。  
一、應募豫定のある方は豫め御申越あれば好都合である。

蠶絲學雜誌編輯係

第七回代議員會開會

來る十一月二十三日午前九時より母校講堂に於て第八回代議員會を開會致します。

支會長各位には代議員御出席方特に御配慮御願ひ申上げます。而て御出席下さる各位並に上田着日時が決定致しましたら本會宛御通報下さい。

千 曲 會

橋の如きは早害に依り五割作を豫想せられたるに本被害に依り更に倍加し前年度の二割五分作に過ぎず其の被害額百二十五萬圓に上り早害を加ふれば三百七十五萬圓に達する豫想に御座候。尙浸水田五百十町歩、海水浸田百九十八町歩にして之等農作物は殆ど全滅に等しき慘狀に有之候。蠶桑の被害は全桑園に及び落葉甚しく殘餘の桑質惡變し蠶作に惡影響を及ぼし上簇中のものに有りても風及雨漏の爲腐質を惡變し晩秋蠶の收繭量著しく減

を圖り處理上には差したる支障無之模様に御座候。幸にして當地方は稍中心を外れ居候に付大阪地方に較ぶれば被害輕く縣内在住會員一同は幸ひ被害輕微に有之恙なく奮闘致居候條々他事御放慮被下度候。先は御禮旁々當方狀況概略御報告申上候。敬具。(九月廿九日附、森本爲之助氏)

京都地方 今般颶風被害に際し京都市在住會員の安否御案に被下早速御鄭重なる御見舞の電報を賜り誠に難有厚く御禮

申上候。目下被害の應急對策の爲め公務員は不眠不休の活動を致し居り一々會員の動靜訪問の暇無之乍遺憾御報致し兼候へ共當地會員は家屋の損傷を蒙り程度に身休無事の模様は付御安心被下度候。先は御禮旁々御一報迄 勿々。

(九月廿四日附 吉川孟文氏)

大阪地方 謹啓、今間近畿地方暴風雨水害に就は早速御懇篤なる御見舞に預り御芳情奉謝候。御座候に於て損宅は被害輕微一同も微傷だも負はず無事に御座候間御放心被下度全く天祐と喜び居り候。猶本社在勤の平本、戸村、安井、河井、諸兄も被害輕く無事に候間之亦御休慮被下度候。既に新聞紙にて御承知の通り弊地は颱風の中心に當り風速實に六〇米に及びしとか、家屋の倒壊、及高潮の襲來に流矢、浸水、數知れず、實に慘憺たる光景に御座候。犠牲者は一萬數千に上り特に可憐なる幼き魂を奪ひし事の多きは目を蔽はざるを得ず候。通信、交通機關は破壊せられて機能を失ひ各地の連絡を絶たれ流言蜚語に人心就たるもの有之候。被害地は工業地帯の大部を占め軍需工業は勿論一般工業界にも非常の損害にて之れが他の關係生産工業に直接間接に影響する處甚大に御座候。

次に弊社市内外工場に於ては神崎、西成、伏見、住吉、天滿の五工場は附屬建物の倒壊、破損ありたるのみならず四貫島、三軒家の二工場は浸水六尺に及び工場及社宅の被害は甚しく御座候。何分瓦斯、水道、電氣の供給を絶たれ且つ三軒家工場の中央倉庫に浸水の結果食物の配給不能に陥りたるも、水の欠乏は苦痛の最も大なるものに候。電力の故障に自家發電を痛感せられ候。酢、ランシの流失にて石炭の配給を欠き石炭機飢に陥るやも不計候。紡機及織機の驅動方法がモーターをフレイム上に置き候當社と床下に埋設したる他社とに於て後者は、浸水の爲め全く使用不能と相成り候。浸水速度

は非常に大なる爲め機織のビーム及カー  
ドの針布類は取外す餘裕なく全部水浸り  
となり之亦使用不能となり製品の流失浸  
水亦尠からず運轉開始は本月半頃との豫  
定に御座候。市内工場の損害のみにて約  
百万圓と推定され全工場の被害は相當量  
に及ぶものゝ如くに御座候。  
今や交通通信機關全く復舊し各地の御温  
情に更生の意氣に燃え復興に努力致居候  
先は御禮申上度如此御座候。

(第二信 十月一日附 久保田一徳氏)

### 千枚漫語

千葉 高 鼎 生

第二回生の卒業記念寫眞アルバムの『  
はしがき』

三年前の春、丁度松尾城趾の櫻が眞盛  
りの頃でありました。私共は始めてパ  
ンドのついた制帽を戴いて希望に満ち  
た蠶事生活に入つたのであります。花  
が散り葉の若芽も色榮えて千曲河畔に  
螢の飛ぶ頃となれば私共は實習に玉な  
す汗を拭ひもあへず勵んだのでありま  
す。青葉に包まれた太郎山は蠶で紫と  
なり紅となつて碓氷に紅葉狩したもの  
昨日の事と思ふ内にいつしか麗しい高  
原の雪景色となつて上田の地にはスケ  
ートが盛に行はれる様になりました。  
斯うした變化を三回繰返して歳月は夢  
の如くに流れ去るにやと御別れ  
しなければならぬ時が参りました。  
長い様で短いものは歲月です。回顧す  
れば私共が入學した當時には未だ正門  
もなく草茫々たる校庭には石材が横は  
り紡績工場は農具置場に代用されて居  
た始末、其他建物や設備の大半も私共  
が入學してから後今の様に完備したの  
であります。盛大なりし開校式を始め  
其他私共の記憶に深く存して永久に忘  
れ難い思出の数々は茲に一々申します  
まい。只私共は淺間の山の燃ゆるが如  
き愛校心と千曲の川の絶えぬ友情と

を誓つて御別れし花の最月の夕の思出  
に此アルバムを綴りて恩師を慕ひ學友  
を懷うて三年の間住られた上田の天地  
をなつかしみませう。さらば！  
あれからもう二十年になる——  
西に東に分れて卒業後一度も顔を會は  
ぬ者が多からう。アルバムにある紅顔の  
美青年も今や初老の秋を迎へて容貌風  
彩一變し突然會つても想ひ出せない相手  
があるかも知れぬ。第二回生と云へば丁  
度昨今四十三四の男盛り、地位を得た者、  
財を積んだ者、別嬪の奥さん自慢の者、  
子福者等々得意の人もあれば、鳴かず飛  
ばず居る者、妻子に死別した者、いつ  
迄も月給が昇らないのを嘆つ者、其他人  
生の行路に悩んで居る者等々失意の人  
もあるであらう。併しクラスメートとし  
て之をみる時、そこには何等の牆壁なく  
唯二十年前の制服に包まれた學生時代の  
氣持が其儘残つて居る丈である。

そこで思ふ。母校二十五周年祝賀を機  
會に同期生が一室に會して過去を追憶し  
現在を語合ふ事が出来たらドンナにか榮  
しいであらうと。併しそれは望むべくし  
て實現は困難であるからせめてもの慰め  
にお互の寫眞と消息をアルバムに收めて  
願つ事にしたら如何なものであらう。

既に他のクラスでは此の様な計畫を實  
行したものゝある事を聞いて居る。又文  
集を出して居るクラスもあり、第三回生  
の『あれから』などはスバラシイものを五  
號も發行して居る。然るに私共のクラス  
に一向それらしい計畫の起らないのは何  
故だらうか。加美君の様なドル箱はなく  
とも芝居の様な世話好きがあつて然るべ  
きではないか。其處で先づ不肖が發企す  
べく二三の者に相談してみた處何れも大  
賛成とあつたから茲に計畫案を具し廣く  
第二期生の賛否を問ふ次第である。

#### 寫眞アルバム計畫案

- 一、寫眞は製版に依らず印刷を貼付す  
る事。(經濟と体裁と何れからするも此方  
がよいと思ふ)
- 二、寫眞の大きさはカビネ判とする事。  
(縦寫し横寫し自由)
- 三、寫眞は成るべく同居家族全員一緒  
に撮影する事。
- 四、右寫眞の種板と、焼付けた印刷一  
枚とを世話人宛送付する事。(印刷は種板  
破損の場合複寫する用意であるから光澤  
紙へ焼付けた物がよい。全部複寫すると  
經費が餘計かゝる)
- 五、寫眞と同時に最近の消息と感想を  
千字以内の文に草して送付する事。
- 六、寫眞は同期生(養蠶科三十六名製  
絲科二十七名)の外校長の近影も收め文  
は印刷に附して寫眞と對照出来る様にす  
る事。(部數兩科共同でやれば六十餘部  
となる)
- 七、アルバムの体裁は世話人に一任す  
るも力めて風雅に而かも格安の物とする  
事。
- 八、アルバム調製費及送料として世話  
人に金五圓宛送金する事。但し殘餘を生  
じたら返送し不足したら追徴する事。
- 九、所定の期日迄に送附して來ない者  
は遺憾ながらオミットする事。

右計畫に對して次の諸項を承りたいの  
だ。異論の申出がないのを賛成と認めれ  
ば好都合だがさうも行かないから千葉市  
寒川新街六四高島秀男様へ葉書一本よこ  
して下さいと言つても年賀狀一本ヤリト  
りせぬ同期生もある事だから全部からの  
御返事を期待する事は甚だ心細いが、  
尙同期生外からも御意見あらば御聞かせ  
願ひたい。

- 回答を求むる事項——
- 一、本計畫に賛成かどうか。
  - 二、前記計畫案の内容に就て何か意見  
があるか。
  - 三、世話人は養蠶科と製絲科から各一

人宛出すとして誰に頼んだらよいか。(養  
蠶科ではBが適任と思ふが彼は尻込み  
するから、言出損に千枚が引受けてもよ  
い。千枚が引受ける以上相談の都合もあ  
るから製絲科の世話人は京濱間の在住者  
にして頂きたい)

若し製絲科の方が頼らなければ養蠶科  
だけでも是非やつてみたい。三十六名中  
賛成回答が三十以上に達すれば直ちに着  
手する。卒業後二十年も経つと云ふのに  
一人の死亡者も出さない蠶二生は確に不  
思議の存在ではないか。併し之から先は  
さうも行かないから兎も角一同揃つて居  
る間に是非實現して置きたい。況んや母  
校創立二十五周年を迎ふるに當つて、之  
程相應しい記念事業はあるまいと思ふ。

### 上田便り

國道改修箇所 内務省では昭和十年度  
國道改良箇所並に工事費を九月七日發表  
したが上田關係は左の通りである。

十號線、上田市—埴科郡南條村、工事  
費二十萬圓。

鐘紡工場上田に設置決定 既報の鐘紡  
工場招致問題は九月十五日成澤市長の下  
神に依つていよいよ上田市に設置と内定  
した。然して内諾の條件として電力料を  
一錢以下にする事、土地を〇圓以下にす  
る事の二條件があつた。電力問題は信濃  
電氣と鐘紡と再度の會見に依り兩者が歩  
みより二十一日詰が圓滿に經つた。土地  
問題は二十九日候補地たる下河原鴨池の  
地主百數十名が協議の結果相當代價を以  
て賣却する事を承認し市の工業委員と折  
衝する事となつた。敷地は十萬坪で電力  
は千五百キロの計畫で最初五百キロを使  
用し製織を主とし併せて絹絲紡績も行ふ  
らしい。土地買収其他がうまく行けば霜  
枯れ時の失業救済に工場地馴し工事を開  
始する豫定である。尙北信で電力が廉價  
に得られる事となつた結果丸子、長野に

分工場設置も決定した。

未曾有の大暴風 九月廿一日午前  
十一時頃上田には未曾有の大暴風襲來し  
建物樹木交通通信方面に渡り莫大の被害  
を與へ市民を戦慄せしめた。會員諸兄の  
御存じの處では常田館の煙突が倒れ宮下  
製絲場の工場の一部が倒壊した。母校で  
は運動場隅の柳寄宿舍前の巨人の如きボ  
グラ其他の樹木が根こそぎとなつた。  
川西九ヶ村灌漑用大貯水池地鎮祭舉行  
年々旱害に悩んで來た小縣郡川西地方九  
ヶ村では總工費二十八萬圓を投じて西鹽  
田村手塚より西内村鹿牧湯方面に通ずる  
山峽の溪流を堰止め周圍約一里にも餘る  
灌漑用一大貯水池を作る計畫なり九月廿  
四日現場にある澤山鐵泉に於て地鎮祭を  
行つた。

北校増築決定 上田小學校は來年度は  
五學級増設の必要があるので九月二十五  
日の市會に於て一万九千八百圓で北校を  
増築する事に決定した。

上田神社祭典 縣社上田神社の祭典は  
九月廿七日夜から廿八日にかけて行はれ  
本年の新しい催しとして廿七日夜に假裝  
行列があつて市民を喜ばせたが中でも出  
色は原町一丁目に出した大鐘と棒(粉)で  
鐘紡熱に浮かされてゐる上田市民の氣持  
を鮮かにキャッチし大喝采を博した。

北信男子中等學校第二部陸上競技及庭  
球大會 縣體育協會主催縣下男子中等學  
校第二部陸上競技及庭球大會は本年より  
南北信に分けて行ふ事になり北信大會は  
九月廿八日絶好の運動日和に恵まれて上  
田市に開催参加校は丸子農商、小縣蠶業  
上水内西部農業、上水内農、更級農業、  
下高井農林、須坂商業、上高井蠶業、北  
佐久農等十校に達し陸上競技は市營競技  
場にて行ひ丸子農商優勝し庭球は市營、  
本校、南校の三コトにて行ひ須坂商業  
が優勝した。

北信女子中等學校陸上競技及庭球大會  
縣體育會主催の第九回北信女子中等學校

ある。

發起人氏名

針塚長太郎	岡 徳次郎	石倉新十郎
清水 寛孝	林部源三郎	田中 一男
遠藤 文平	加美 好男	巢山 喜吉
河西 尚一	野口新太郎	栗山 清和
彼末 武猪		

## 一、小類の研究



長谷川(〃)	小松(五)(三)段
久松(〃)	橋本(二)段○○
植松(〃)	母袋(初段)
折田(〃)	本居(二段)○
小堤(〃)	黑岩(初段)
村上(二段)	和田(〃)
副將長田(〃)	山本(〃)
大將(〃)翠(三)段	小松(茂)(三)段

## 個人點取法

山梨

山梨高工

紅白試合

個人試合

固人試合

先鋒 橋本 千吉良 ○  
松村 渡邊 ○  
星野 上 兼 ○  
足立 横山 ○  
水谷 河村 ○  
土屋 清水 ○  
赤羽 宮尾 ○  
河合 中村 ○  
神谷 伊藤 ○  
大將 ○ 竹村 浅川

縣下中等學校庭球大會 母校庭球部主  
健第五回縣下中等學校庭球大會は九月十  
六日母校コートに開催参加校は小商、岩  
中、北農、野中、丸農、上中、小蠶、屋  
中、松代商、須中、飯山中、長師、長商  
長工、長中、松中、伊中の十八  
校七五組に達し準決勝以下の成績は左の  
如く結局松本二中、長野商業の決勝戦  
となり手に汗を握るシーソーゲームを演  
じ松本二中優勝旗を獲得した。因に昨年  
と一昨年の優勝者は長野師範であつた。

準決勝  
松本 浅川 四二二 伊那 熊谷 烏  
二 中 木 村 四二二 伊那 熊谷 烏  
商業 丸 山 四二二 伊那 熊谷 烏  
松本 浅川 四二二 伊那 熊谷 烏  
二 中 木 村 四二二 伊那 熊谷 烏  
商業 丸 山 四二二 伊那 熊谷 烏

遠路より出場し準決勝に二組を残したに  
拘らず武運拙く潰滅した伊那中に對して  
氣の毒に堪えぬ。

對事修大學庭球試合 事修大學専門部  
の申込に應じ九月二十日午後三時より母  
校道場に於て庭球試合を行つた。得意の  
寝業を封ぜられたにも拘らず左記の如き  
好成绩を示した。

専修大 本校  
先鋒 吉澤(初段) 小松(正)(二段) ○  
藤澤(初段) 小松(正)(二段) ○  
鈴木(二段) 小松(正)(二段) ○  
吉田(三段) 橋本(二段) ○  
吉田(三段) 橋本(二段) ○  
大將(初段) 小松(正)(二段) ○  
對山梨高工野球戦 二年連勝せる野球  
部は九月廿四日山梨高等工業學校に遠征  
し三對一のスコアにて惜敗した。本試合

に對する山梨の意気込みは非常なるもの  
に如く甲府体育協会の大会は負けら  
れる、學校長は應援に來ると云ふ状態  
であつたと云ふ。スコア及メンバーを示  
す。

本校 0000010000  
山梨 0100010000  
0100010000  
3A 1

山梨 鈴木有岩矢下門飯青  
二(三)捕遊投(一)右左中  
山梨入田本崎末地水  
村廣宮中塚野堀様清  
遊(中)一投(三)捕(右)左

桑道部松高に大勝す 桑道部は九月三  
十日松本高等學校に遠征し四人を残して  
大勝した。昨年は母校に迎へ引分けとな  
つてゐる。その戦績は左の如くである。

先鋒 松高 小松(正) ○  
花岡 小松(正) ○  
吉川 小松(正) ○  
佐藤 小松(正) ○  
池田 小松(正) ○  
本 小松(正) ○  
渡邊 小松(正) ○  
木村 小松(正) ○  
櫻田 小松(正) ○  
神林 小松(正) ○  
前 小松(正) ○  
副將 ○ 佐々木 小松(正) ○  
大將 ○ 阿部 小松(正) ○

劍道部松高に快勝す 劍道部は九月三  
十日松本高等學校に遠征し熱戦の結果左  
の成績にて昨年同様快勝した。紅白試合  
に於て伊藤君の大將以下八人抜いての優  
勝は特筆大書すべき價值がある。

個人試合  
松高 本校  
初 高 本  
二 高 本  
三 高 本  
四 高 本  
五 高 本  
六 高 本  
七 高 本  
八 高 本  
九 高 本  
十 高 本  
十一 高 本  
十二 高 本  
十三 高 本  
十四 高 本  
十五 高 本  
十六 高 本  
十七 高 本  
十八 高 本  
十九 高 本  
二十 高 本  
二十一 高 本  
二十二 高 本  
二十三 高 本  
二十四 高 本  
二十五 高 本  
二十六 高 本  
二十七 高 本  
二十八 高 本  
二十九 高 本  
三十 高 本  
三十一 高 本  
三十二 高 本  
三十三 高 本  
三十四 高 本  
三十五 高 本  
三十六 高 本  
三十七 高 本  
三十八 高 本  
三十九 高 本  
四十 高 本  
四十一 高 本  
四十二 高 本  
四十三 高 本  
四十四 高 本  
四十五 高 本  
四十六 高 本  
四十七 高 本  
四十八 高 本  
四十九 高 本  
五十 高 本  
五十一 高 本  
五十二 高 本  
五十三 高 本  
五十四 高 本  
五十五 高 本  
五十六 高 本  
五十七 高 本  
五十八 高 本  
五十九 高 本  
六十 高 本  
六十一 高 本  
六十二 高 本  
六十三 高 本  
六十四 高 本  
六十五 高 本  
六十六 高 本  
六十七 高 本  
六十八 高 本  
六十九 高 本  
七十 高 本  
七十一 高 本  
七十二 高 本  
七十三 高 本  
七十四 高 本  
七十五 高 本  
七十六 高 本  
七十七 高 本  
七十八 高 本  
七十九 高 本  
八十 高 本  
八十一 高 本  
八十二 高 本  
八十三 高 本  
八十四 高 本  
八十五 高 本  
八十六 高 本  
八十七 高 本  
八十八 高 本  
八十九 高 本  
九十 高 本  
九十一 高 本  
九十二 高 本  
九十三 高 本  
九十四 高 本  
九十五 高 本  
九十六 高 本  
九十七 高 本  
九十八 高 本  
九十九 高 本  
一百 高 本

後藤 雨宮 千吉良 ○  
宮澤 渡邊 ○  
白田(初) 河村 ○  
白田(初) 中村 ○  
白田(初) 清水 ○  
白田(初) 伊藤 ○  
白田(初) 浅川 ○  
白田(初) 深井 ○  
白田(初) 井川 ○  
白田(初) 藤澤 ○  
白田(初) 鈴木 ○  
白田(初) 吉田 ○  
白田(初) 大將 ○  
白田(初) 對松本高工野球戦 野球部は九月三十  
日市営球場に於て松本高等學校と試合を  
行ひ左のスコアで惜しくも破れた。今年の  
野球部は運が悪い。

松高 000100210000  
本校 000100210000  
000100210000  
3 4

本校 鈴木有岩矢下門飯青  
二(三)捕遊投(一)右左中  
山梨入田本崎末地水  
村廣宮中塚野堀様清  
遊(中)一投(三)捕(右)左

劍道昇段及編入 劍道部にては十月一  
日左の如く昇段及編入を發表した。

松高 本校  
初 高 本  
二 高 本  
三 高 本  
四 高 本  
五 高 本  
六 高 本  
七 高 本  
八 高 本  
九 高 本  
十 高 本  
十一 高 本  
十二 高 本  
十三 高 本  
十四 高 本  
十五 高 本  
十六 高 本  
十七 高 本  
十八 高 本  
十九 高 本  
二十 高 本  
二十一 高 本  
二十二 高 本  
二十三 高 本  
二十四 高 本  
二十五 高 本  
二十六 高 本  
二十七 高 本  
二十八 高 本  
二十九 高 本  
三十 高 本  
三十一 高 本  
三十二 高 本  
三十三 高 本  
三十四 高 本  
三十五 高 本  
三十六 高 本  
三十七 高 本  
三十八 高 本  
三十九 高 本  
四十 高 本  
四十一 高 本  
四十二 高 本  
四十三 高 本  
四十四 高 本  
四十五 高 本  
四十六 高 本  
四十七 高 本  
四十八 高 本  
四十九 高 本  
五十 高 本  
五十一 高 本  
五十二 高 本  
五十三 高 本  
五十四 高 本  
五十五 高 本  
五十六 高 本  
五十七 高 本  
五十八 高 本  
五十九 高 本  
六十 高 本  
六十一 高 本  
六十二 高 本  
六十三 高 本  
六十四 高 本  
六十五 高 本  
六十六 高 本  
六十七 高 本  
六十八 高 本  
六十九 高 本  
七十 高 本  
七十一 高 本  
七十二 高 本  
七十三 高 本  
七十四 高 本  
七十五 高 本  
七十六 高 本  
七十七 高 本  
七十八 高 本  
七十九 高 本  
八十 高 本  
八十一 高 本  
八十二 高 本  
八十三 高 本  
八十四 高 本  
八十五 高 本  
八十六 高 本  
八十七 高 本  
八十八 高 本  
八十九 高 本  
九十 高 本  
九十一 高 本  
九十二 高 本  
九十三 高 本  
九十四 高 本  
九十五 高 本  
九十六 高 本  
九十七 高 本  
九十八 高 本  
九十九 高 本  
一百 高 本

本會記事  
九月十日 本會の爲め御盡忠賜はりた  
る倉澤運平翁の御葬儀に對し本會を代表  
し林理事會葬せり。

九月十一日 理事會開會千曲時報會員  
名簿代議員會開會等に關し打合研究す。

九月十二日 暴風の被害甚敷東海近畿  
地方の在住會員に對し電報又は書面を以  
て安否を照會旁々見舞狀を發す。

全日 全支會長に暴風被害の狀況を照  
會せり。

九月十五日 母校創立二十周年時代計  
畫したる寄附金募集事務の件に關し廣島  
縣警務部より照會あり即日回答せり。

全日 第八回代議員會開會並に提出問  
題の件に關し各支會長に通知す。

九月十八日 川船監事の御出張を煩は  
し本會々計事務の監査を願へり。

九月廿九日 出版法の改正に伴ひ千曲  
時報の出版局並に今後に於ける出版手續  
の省略願を内務大臣宛提出す。

九月三十日 本年度會費未納者に對し  
送納方依頼狀を發す。

十月二日 宮城縣廳農務課勤務の鈴木  
貞治氏(竊九)長逝せらる。御遺族に對し  
弔電を發し同時に支會長へ其旨通知す。

支會通信  
アンチヤンの來松  
九月六日松本平は近頃珍らしい快晴、  
澄み渡る初秋の朝の太陽は冷たく陰に泌  
みて吸ひ込む肺にも軽い抵抗を覺えた。  
八月下旬以降連日の冷湿で陰鬱に閉され  
て腐れ切つてゐた我々の五感は一碧瑠璃  
の如き秋空に、スッカリ氣をよくしてゐ  
た。

偶然と言はうか、この日夕刻アンチャ  
ンこと助教山口さんがヒョコリ來松  
した。休暇を利用して山梨から東京の  
方へ旅行の途次ワザ／＼お立寄り下さつ  
たのである。山口さんの來松は四  
年振りに助教に御挨拶なされてから初  
めての事で兎角母校には御無沙汰勝ちな  
同志の喜びは一通りや二通りではない。  
春以來明けても暮てもお蠶、お蠶でアッ  
通して來た面々は此頃漸く時間に餘裕を  
見出せるやうになつたし、今日の快天に  
久しくコビリつかれてゐた重苦しいもの  
を吹拂つて高原の秋は爽やかさと愉快さ  
を十二分に満喫したかつたのである。之  
れまさに絶好のチャンス！

私は山口さんの御來駕を養蠶科同窓の  
職場に電話を以つて御通知申上げた。皆  
の喜び様は私の想像以上で私には何と形  
容してよいかその言葉に迷はれる許りな  
であつた。その時の會話の二三を卒直に  
文字にすると

A 『エー？山口先生が來た！何處にゐ  
る。試験場？今晩は何處だ浅間か、ナニ  
宿ぢやねーよ、飲む場所だよ、一未だ決  
まらねー？何あんだ大いにやれよ、一決ま  
つたらすぐ知らせる、歸らずに役所に待  
つてゐるから……』

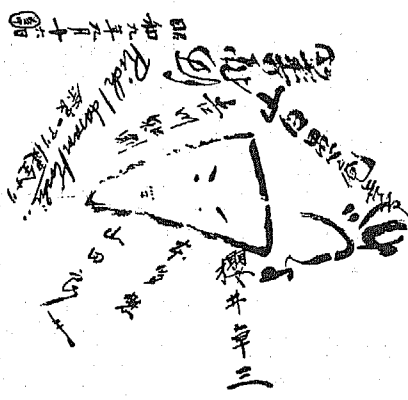
B 『ナニ？山口？アンチヤンが來たつ  
て？晩飯を食ふつて、何處で松本館？六  
時から……エー！今五時半か、馬鹿に急  
だナ！ヨシ！モシ！／＼僕の處は石附、  
酒井は山へ行つて留守だが五人位はキッ  
ト出れるよ、ナニ他の諸君にも知らせ  
て呉れつて？そんなことモチやねーか』

C 『……エー！エー！わたくしエー！  
ぜぜぜ！ひやおおなま入り願ひますウ  
ー！』

集りし面々は寄書を通り、便宜譯して  
みると次の如くである。

久保田正樹、竹内衛佐雄、中澤利三郎

(縣獄試) 關順一、和田敦(蠶取締)、古鏡孝、田口恒夫(普及團)、倉澤一二三、河越哲男(片倉蠶試)、淺野清志、河田榮一、市河信一(國蠶試)、赤羽是壽(實業家)



御覽の通りの若者揃ひ―其の意氣やまさに昇天。そこに我等のお父さんこと久保田支會長は飯より好きなバツトを甘さうに煽らせながら軽い笑みを面に漂はせ作遊の意氣にさも満足したといふ様姿が織り混ぜられて和氣満溢、お酌ぬき(事由)酒を飲まれる。禁玉代、可酒代等(大いに飲む。そして久振りに酔ふ。躍らず―痛快―談論風發。愉快―爆笑各所におこる。私達の心のうちは終始喜びの絶頂にあつた。満座に漲る和やかな賑やかさは全く初秋の一夜に相應はしいものであつた。山口さんの御都合もあつたので遺憾なく午後九時半散會山口さんは淺間ならす豊科の宿へ向はれた。私達には山口さんをお止めする勇氣はなかつた。何故なら山口さんの豊科の宿は相當のものらしく思へたからである。併しきかぬ氣の若手連中A、B、C山口さんの『豊科には待つてゐる人があるんだ』の失言?をとらへて互ひに詰め寄りそこにはユーモラスな場面が展開された。その一場面―A、B、『オヤ、アンチヤン持つてゐるテ』のは誰だ、誰だよ!前から後から袖を引いて盛んにゆすりドロを吐かせようとする。山口さん至極眞面目で唯一語

『それか、竹馬の友さ』A、B、『コレ、嘘をつけ、嘘を』(中略)三人力て取押えられた型の山口さん悲鳴はあげなんだつたが餘程困つたと云ふ面持に興奮の色も混せて次に言つた『オイ、ソ、俺にからまんなよ……おごらんとは言はね、自狀する―豊科には俺の前澤先生があるだよ』A、B、C。山口さんの手を弛めるなり互にキョトンとした顔を見合せてダー。

春日山のドライブ

建國の祥地大和に千曲會の小集が催された。集るもの九名、大阪の紡績小集に對抗した譯でもないが、その何れもが製絲科出身者である處に異色を放つた。九月十六日 第三日曜日、奈良の一片亭に集り、浴後揃ひの浴衣を着た吾輩の士、甲もなければ乙もない。元來大和を近畿支會に抱合されて或は京都或は大阪の諸君の驥尾に附して居つたのであつたが、巡る秋は大和に幸ひして、今日の盛會を見るに至つたことを喜んだのである。近畿支會は多くの支會員を有して居るが、其のくせ會合は何時



も五指を屈するに過ぎない寥々たるもので、支會員の總意を代表するには餘りに不完全な御粗末な結合である。その昔八木、加美、小見の諸兄が京都に陣し天下に號令したは更に更でないのである。つらつら按ずるに、京都は帝國大學の中心として細胞があり大阪、滋賀は紡績業を巡る一團の隨意の會合をして居るやうな始末で全く近畿支會としての統制がとれて居らない事から、大和在住の十一名が大和支會發祥の氣運を孕んで、此處に會合したのであつた。席上の意見としては大体左記の様なものであつた。

一、大和支會を創立し毎年春秋二期これが總會を開催し、一日のアルジョア気分を味はふこと。

二、廿五周年記念事業に對しては滿腔の熱誠を捧げ、その成功を期すること。

三、會員名簿の改正は尤も緊急なる事業につき廿五周年をとし、その實現を促進せむとす。

以上の様な申合せをして寄せ書きもそこへ自動車に分乗千古不滅の處女林春日山をドライブして三笠山頂の營帳に立ち暮れ迫る大和を脚下に吾輩萬歳を唱和した。

終りに會合人名を録して當日の暴れ振りを想像して頂くことにする(藤井生)

客員 山田良人 満洲國將官  
會員 山田保士 野球のおつさん  
越 英信 ○○會社宣傳部長  
櫻井卓三 ○○學校守衛長  
吉川知則 料理の親方  
河野 恭 ○○教の開祖  
吉賀哲雄 靴下會社技師長  
本田 懋 ○○寺管長  
藤井 料 借家管理人

叙任辭令  
昭和九年九月一日  
公立實業學校教諭 曾山 直高  
陸シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル  
昭和九年九月四日  
公立實業學校教諭 山口 貞周

廿五周年記念事業

- 釀出金納入者第五回報告(現 十月三日 在)
- (○印は完納を示す)
- 金壹百圓也  
○小川 保(蠶二)○片倉 二郎(絲七)  
金參拾圓也  
○小笠原安重(蠶二)  
金貳拾五圓也  
○富田庄三郎(絲八)○笠原 正巳(絲七)  
○安孫子文彌(蠶三)○松村 愛信(絲一)  
○長田 保美(絲九)  
○小山 二郎(蠶六)○佐藤 愛之(蠶九)  
○佐藤 彰二(蠶九)○西 孝重(絲八)  
○富田庄三郎(絲八)○笠原 正巳(絲七)  
金拾五圓也  
○笠原 義人(絲七)  
○笠原 義人(絲七)  
田附一 一郎(蠶一) 上原 清夫(蠶一)  
工藤 一二三(蠶一) 矢澤茂登一(蠶一)  
篠原 善次(蠶一) 林 周藏(蠶三)  
登坂 忠吉(蠶三) 中澤 勝也(蠶三)  
福田鐵之助(蠶三) 芝 廣(蠶三)  
中尾小太郎(蠶四) 岡部 康之(蠶四)  
五島眞喜太(蠶四) 三橋 宜夫(蠶四)  
田附由治郎(蠶五) 丸山 武夫(蠶五)  
關田 九平(蠶五)○富岡 泰(蠶六)  
若林 茂一(蠶五)○清藤 三郎(蠶五)

- 三輪 輔(絲一) 鈴木 誠(絲一)  
沖 清治(絲二) 塚田 鎮磨(絲二)  
佐々木峰二(絲二) 木内 保平(絲二)  
飯島 直(絲三) 水谷 郷(絲三)  
杉野 壽一(絲三) 梅澤庫太郎(絲五)  
○西山 省(絲九)○藤澤喜一郎(紗七)  
○中山 博氏  
金五圓也  
橋本 廣(蠶六) 萩原 孫三(蠶六)  
太田慎一郎(蠶六) 佐藤 俊三(蠶六)  
上林多兵衛(蠶七) 前田 龜雄(蠶七)  
味知 康三(蠶七) 細川 護(蠶八)  
小林 繁(蠶八) 川村吉太郎(蠶九)  
金崎 眞英(蠶九) 中島 文雄(蠶九)  
大高 雄三(蠶九) 後藤 仙彌(蠶九)  
岸 善亮(蠶九) 佐藤 義助(蠶九)  
北島 正生(蠶十) 安川 寛(蠶十)  
奥野 憲三(蠶十) 今村 良郷(蠶十)  
沼田 周造(蠶十) 大熊 康代(蠶十)  
武本 木治(蠶十) 野澤司馬作(蠶十)  
矢島 良雄(蠶十) 宮川 繁治(蠶十)  
宮城 博(蠶十) 竹内 善吾(蠶十)  
古越 光明(蠶十) 渡邊 晋吉(蠶十)  
西本 朝平(蠶十) 山本 誠(蠶十)  
小山 弘吉(蠶十) 山本 信尊(蠶十)  
櫻井 世烈(蠶十) 鈴木 雄七(蠶十)  
朴 恒次(蠶十) 木内 節隆(蠶十)  
熊谷 力三(蠶十) 演  
伊藤 亮(蠶十) 野里 秀直(蠶十)  
河村 益美(蠶十) 笠原 四郎(蠶十)  
河田 英一(蠶十) 中澤 喜雄(蠶十)  
河田 哲一(蠶十) 春日 卓郎(蠶十)  
梶田 陸(蠶十) 市川 信一(蠶十)  
松野 外史(蠶十) 市川 信一(蠶十)  
原 治夫(蠶十) 山崎 勝巳(蠶十)  
角田 修(蠶十) 山崎 良一(蠶十)  
小林 俊郎(蠶十) 市川 清男(蠶十)  
池田 專三(絲六) 河井 正(絲七)  
陶山 元之助(絲七) 甲田 勝衛(絲七)  
楠田元之助(絲七) 尾 義朗(絲八)  
大塚 重三(絲八) 尾 忠太郎(絲九)  
黒田誠一郎(絲八) 堀 秀吉(絲九)  
大谷 寛之助(絲十) 堀田平太(絲十)  
依田寛之助(絲十) 牧野 春雄(絲十)  
倉橋 琢而(絲十) 若林 弘(絲十)  
石井 謙三(絲十) 荒井 猛(絲十)  
山口 榮治(絲十) 金野 巖(絲十)  
櫻井 卓三(絲十) 村田 備宣(絲十)  
高橋 誠(絲十) 土岐 茂次(絲十)  
松井 正次(絲十) 角替 赴夫(絲十)  
武藤 寛一(絲十) 堀井金次郎(絲十)  
星野 幸成(絲十) 永山 平(絲十)  
内田 武(絲十)

高馬 一郎(絲七) 佐藤 東平(絲七)  
岡倉 美義(絲七) 飯濱 榮(絲六)  
井野 正夫(絲六) 千葉 達人(絲六)  
成尾 喜八郎(絲六) 松井 憲二(絲六)  
宮澤 二郎(絲六) 中島 熊保(絲六)  
吉川 知則(絲六) 梅村 義一(絲六)  
山崎 當録(絲六) 宮下 幸三(絲六)  
六川 忠行(絲六) 川村 五郎(絲六)  
竹内 正司(絲六) 坪根 克彦(絲六)  
松崎 昇平(絲六) 丸山 勲(絲六)  
水上 精一(絲六) 北原 基(絲六)  
三宅 玉留(絲六) 和田 貞政(絲六)  
北村 青穂(絲六) 小林 忠十郎(絲六)  
武井 一郎(絲六) 高橋 よし江(絲六)  
松澤 榮(絲六) 須藤 靜子(絲六)  
○關 純子(準會) 須藤 靜子(準會)  
金四圓也 四方 定雄(銀九)  
合計金額壹千五百貳拾四圓也  
累計金額貳千五百貳拾四圓也  
發出金申込者第五回報告(十月三日)  
二〇口(一名二〇口金額壹百圓也)  
片倉 二郎(絲十七)  
六〇口(一名六〇口金額參拾圓也)  
小笠原 安重(銀二)  
五〇口(拾四名七〇口金額參百五拾圓也)  
佐谷 健治郎(銀二) 波多野 千里(銀一)  
小川 敬之助(銀二) 青木 針三郎(銀三)  
田附 由治郎(銀五) 尾見 祐人(銀一)  
中田 太郎(銀七) 松村 愛信(銀一)  
細川 三郎(銀二) 竹内 眞喜雄(銀二)  
酒井 五十三(銀三) 中村 吉男(銀五)  
石原 六朗(銀三) 山茂 忠太(銀三)  
四〇口(拾一名四拾四口金額貳百貳拾圓也)  
宮島 庄平(銀七) 萩野 徹間(銀八)  
越智 岩平(銀九) 佐藤 彰二(銀九)  
是枝 良徳(銀十) 古川 俊之(銀十)  
岡村 源一(銀六) 好士 泰造(銀八)  
西 孝重(銀八) 石濱 正巳(銀十)  
笠原 正巳(銀十五)  
三〇口(九名貳拾七口金額百參拾五圓也)  
水城 孝男(銀十一) 岩根 謙(銀十一)  
井手 末馬(銀十二) 矢島 良雄(銀十三)  
降旗 孝(銀十五) 和田 虎三(銀十二)  
野尻 白二(銀十四) 笠原 義人(銀十八)  
今村 與志郎(銀十五)  
二〇口(二名四口金額貳百貳拾圓也)  
富岡 泰(銀六) 深迫 明(銀十六)  
早乙女 徳藏(銀十七) 橋本 博(銀十七)  
竹内 博雄(銀十九) 清藤 三郎(銀二十)  
緒方 良純(銀十二) 三木 辰男(銀十六)  
正木 章三(銀十六) 吉井 鼎(銀十六)  
中島 退(銀十六) 大塚 精一(銀十七)  
安田 辰巳(銀十七) 西山 省(銀十九)

林 清市(絲十九) 山崎 保太(絲十九)  
大石 唯男(絲十九) 山本 金之助(絲二十)  
柳澤 信義(銀十) 細井 滿(銀十)  
藤澤 喜一郎(銀十一) 中川 博司氏  
一口(三名三口金額拾五圓也)  
佐藤 東平(絲十七) 西澤 良一(銀廿一)  
池田 俊郎(銀廿一)  
準會員(十一名十一口金額五拾五圓也)  
一口  
兒玉 孝 田中 てる子 小柳 シズ  
市川 乙女 高橋 よし江 山崎 政江  
栗山 とり 長谷川 みゆき 田中 きみ子  
關 純子 須藤 靜子  
合計人員 七拾貳名  
合計口數 貳百貳拾五口  
合計金額壹千壹百貳拾五圓也  
會費領收(九月三十日)  
昭和九年度通常會費納入者  
(〇印は銀絲學雜誌代共)  
村田 夕(銀六) 万石 安太郎(銀九)  
古川 俊之(銀十) 〇氏 忠次(銀五)  
池田 篤治郎(銀五) 小野 克治(銀九)  
北澤 延榮(銀五) 長田 保美(銀九)  
神戶 敏夫(銀五) 横山 英一(銀五)  
高橋 誠(銀五) 根澤 健(銀六)  
未納會費納入者  
金七拾圓也 松村 愛信(銀一)  
金五圓也 細川 三郎(銀二)  
入金納入者  
金拾圓也 須江 辨三郎(銀三)  
金五圓也 太田 三郎(銀三)  
終身會費完納者  
松村 愛信(銀一)  
銀絲學雜誌代  
金貳圓也 市川 信一(銀三)

座東京第四三三四番(鈴木氏弔慰金)  
の旨御明記の上御拂込被下度候  
故佐藤雄次郎氏弔慰金二回  
金貳圓也 中島 茂  
金壹圓也 山口 定次郎 安川 寛  
山口 秀太郎 山岸 寛  
武本 本治 村田 信宣  
志賀 春男 佐藤 勲  
結城 鎮男 松野 輝彦  
右合計金額拾參圓也  
累計金額拾參圓也  
故金澤文也氏弔慰金二回(完結)  
金壹圓也 山口 定次郎 安川 寛  
右合計金額貳圓也  
累計金額貳圓也  
故三谷徹氏記念資金  
寄附者芳名  
阿形 輝司 和田 仙太郎 早川 直瀬  
原田 親雄 佐藤 利一 岡 徳次郎  
清水 寛孝 内田 三郎 金子 英雄  
金貳拾圓也 針塚 長太郎  
金拾圓也 片倉 新太郎 榎原 春彦  
片倉 保太郎 藤崎 卓爾 松村 愛信  
丸山 忠良 長田 保美 石坂 治郎  
町田 二郎 岩淵 平介 飯島 直  
片倉 二郎 野崎 次郎 田口 敏夫  
金參圓也 山越 さと 鈴木 俊雄 森山 二郎  
長岡 哲三 細川 三郎 富田 清治  
茨木 こう 志田 敬夫 富田 三郎  
中島 三郎 坪井 啓作 坂路 善三  
竹内 三郎 梅澤 長市 吉澤 彌吾  
林 秀門 馬場 長市 彌吾  
金貳圓也 中川 秀夫 大澤 孝三 竹内 健二  
湯川 秀夫 寺田 定次郎 清水 運策  
吉井 秀夫 山口 主計 大原 賢治  
春原 太郎 山田 主計 大原 賢治  
小林 清丸 内藤 榮吉 若林 三郎  
都筑 貞吉 森澤 桑子 小山 滋  
石濱 正巳 依田 啓藏 濱井 壽夫  
武田 七郎 新居 三郎 木村 やよい  
櫻井 博 山本 金之助 矢部 満房

栗原 保定 高橋 辰治 中田 太郎  
山越 茂 南澤 清 倉田 照子  
古屋 永昌 角替 越夫 上田 岩男  
金壹圓五拾錢也  
金壹圓也 大高 雄三 則信 忠夫 馬場 豊  
西山 諫治 橋本 武光 西本 朝平  
正田 わか 瀧澤 もと 牧野 久  
佐藤 かつ 松野 輝彦 須藤 静子  
茅野 やす 小口 兼雄 原 清志  
關 順一 中澤 利三郎 上原 りつ 矢保  
寺島 親雄 和田 虎三 立岩 笑保  
萬石 安太郎 荻野 恒 高橋 重吉  
弘宜 榮三 田中 てる子 小柳 シズ  
太田 三郎 須江 辨三郎 濱村 一彦  
竹下 文英 宮坂 收 宮内 智  
茅野 功 久保 藤一 田玉 龜太郎  
平尾 孝平 小林 尚一 山本 賢市  
副田 好美 池内 眞吾 成瀬 次男  
細川 豊 枇杷木 龍雄 細谷 金次郎  
小松 忠一郎 下井 盛夫 成毛 順一郎

會員動靜 (十月五日現在)  
宇多田 泰熊(銀六) (勤)東京府大島元村 東京府蠶業取締所大島出張所  
柏倉 豊吉(銀九) (住)山形縣南村山郡上ノ山町澤丁松山  
鈴木 貞治(銀九) (勤)昭和九年十月一日死亡  
矢島 良雄(銀一三) (勤)朝鮮忠清南道公州、公州公立農業學校  
清家 重明(銀一五) (住)愛媛縣宇和郡二木生村垣生  
中村 馨(銀一六) (勤)香川縣豊後郡本山村、片倉製絲紡績株式會社本山出張所  
加藤 省三(銀一六) (勤)沖繩縣那覇郡大宜味村駐在(縣蠶業技術)  
宮城 蕨(銀一六) (勤)下伊那郡飯田町、長野縣蠶業取締所飯田支所  
清水 洗(銀二二) (勤)島根縣松江市、島根縣蠶業取締所  
田浦 善(銀二七) (勤)奈良縣櫻井町、有責任購買組合奈良縣乾蘭倉庫  
河野 春雄(銀一〇) (勤)朝鮮總督府農事試験場蠶絲部  
牧野 泰雄(銀一三) (勤)京畿道水原郡日新面、農事試験場蠶絲部官倉  
島山 茂忠太(銀一三) (勤)豐橋市柳生橋温美電機建物内、日本人造羊毛株式會社  
由井 千幸(銀一六) (勤)東京府、朝鮮總督府農林局農政課  
宮野 保夫(銀一七) (勤)東京府、朝鮮總督府農林局農政課  
村上 龜久(銀一七) (勤)東京府、朝鮮總督府農林局農政課  
吉賀 哲雄(銀一八) (勤)奈良市南袋町、日本メリス株式會社奈良工場  
越 英信(銀一八) (勤)奈良縣磯城郡城島村、龜山製絲株式會社大和工場  
井上 泰利(銀一八) (勤)長野縣諏訪郡平野町、新綾部製絲株式會社本部養成所  
飯濱 榮(銀一八) (勤)京都府何鹿郡綾部町、新綾部製絲株式會社本部養成所  
山田 良人(銀一八) (勤)京都府相樂郡木津町、新綾部製絲株式會社本部養成所  
大石 唯男(銀一九) (勤)京都府大門口、京畿道蠶業取締所  
菅野 恒(銀二〇) (勤)三重縣度合郡小俣町、三重縣立立明野蠶業學校(校名改正)  
西山 德治(銀二二) (勤)福井縣丹生郡織田村、三共社

瀧野 多喜(舊教八) 昭和九年九月二十三日死亡  
伊藤 是(舊教一三) (勤)愛知縣知立町、岡本製絲場  
山田 かねめ(舊教一五) (住)小縣郡九子町腰越  
上原 みつ(舊教一六) (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場  
西原 芳(教二) (住)上田市常盤城二九

### 新入會員

中川 博司(選蠶八) 舊、中川三郎 (自營)東京市神田區多町二丁目二番地一  
一電話神田(25)七二四番辨天商會  
丸川 太郎(選蠶九) (住)山形縣西脇郡蠶桑村横田尻一四六一

### 編輯室より

◇九月廿一日突如現はれた大颶風は通過地のありとあらゆる事物を破壊し去つた。罹災各地の會員諸氏に對しては何んと御見舞の言葉を申上げてよいか分らない。  
◇其れにつけても同じく颶風にあひ乍ら微傷だに負はなかつた上田の天恵には感謝せざるを得ない。火事、水害、地震、それから風にしても未だ會で酷い目に會つた事がない。天災なき地上田此の點だけは他に對して誇り得るであらう。

◇天候のせいでは不作だが松茸はうんと採れた。年々松茸は目で見ると我々も鰻腹御馳走になれる。何にしろ百匁二十錢だからね。  
◇先月號に豫告した通り今月はスポーツの豪華版を御目にかける事が出来た事を喜ぶ。今年の柔道部剣道部の強さは非常なものである。高専大會に出場せざりしを惜しむ。

◎式煮繭機  
◎式多條機

特許TM式ストーカー  
特許TM式コールセーダー

製絲機械器具一般  
設計請負

高崎市赤坂町七六番地

坂路商店

電話 一二〇九番  
振替口座東京三三九番

◇この頃の寒さはどうですか。家に歸つても居場所がないのです。それで到頭炬燵を作つてしまひました。炬燵と云ふ字を見ると皆さん信州を思ひ出すでせうねえ。  
◇陸上運動會が間近にせまつて毎日應援團の太鼓と拍子の音が聞えて來ます。母校の運動會は立派な上田の名物の一つになりました。  
◇今紅葉が盛りです。母校の銀杏は黄く櫻は赤く夕日に映えてえも云はれぬ美しさです。

御來田のお土産は  
みずい飴 上のフルーツ  
杏ゼリー チョコレート  
杏水飴 黒羊羹  
杏羊羹 クルミ羊羹  
信濃そば 果物類 罐詰詰

上田市松尾町

上飯島商店

電話二六〇・二五四

御宴會に 御會食に

レストラン

香青軒

明朗な洋室 落付いた

和室(數室)

上田市袋町 電話13番

千曲會指定旅館

上村ホテル

上田市海野町  
電話三二七番

紡織、蠶絲、レーヨン、電氣、理化學  
其他諸機械器具、冷凍機械裝置、  
設計及製作

旭工業商會

正會員 飯島貞雄  
東京市芝區田村町三ノ七  
電話芝(四三)一七二八

## 染京

領受牌金賞等一會覽博於

染賃が今迄の半額以下

御一報次第(御年齢記入)京染新柄見本と營業案内を御送りします それに依つて御好を御覽下さい

有名な京染が御家庭から京都染元直接に注文が出来る様な便利になりました 染元直接なるが故に染賃が半額以下で出來ます

まだ御存知ない御方は是非一度御試し下さい

徳岡の京染はナゼ安いか御客様……京染問屋徳岡直接だからです

外の京染はナゼ高いか御客様……注文取……  
地方京染店……京染問屋だからです

白生地類は御値で差上げますから地方より二三圓安く御手に入ります

御注文先より御禮狀毎日續々到着

各府縣産業組合御締約染元

京都市下京區高辻通大宮西入

目録營業

京染吳服  
白生地御  
西陣織物

京問合資  
染屋會社

徳岡總本店

振替 大阪 六三六二八  
福岡 一五七四六  
電話 下 二九一六

小店員募集 申込次第委細通知す